

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 11 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570102814号
法人名	社会福祉法人 シャカイフクシ ホウジン 聖心の布教姉妹会 ミココロ フキョウ シマイ カイ
事業所名	みそのホームグループホーム
所在地	秋田市寺内蛭根二丁目6番34号 (電話) 018-824-3341
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年9月29日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 (常勤 5 人 非常勤 5 人 常勤換算 8.5 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	☐ 有 (円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☐ 有 (円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	☐ 有 / ☐ 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	0 名	要介護 2	2 名
要介護 3	3 名	要介護 4	0 名
要介護 5	4 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科クリニック、市立秋田総合病院、土崎病院、田中歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「感謝、喜び、安心」を法人理念に掲げ、利用者が地域で穏やかに暮らせることを大切にし、愛の精神に基づいた献身的なケアを実践している。
事業所は元病院だった建物の2階に位置し、1階には通所介護、3階には小規模多機能型居宅介護事業所があり、「みそのホームはひとつ」という共通理解のもと、各事業所の機能を有効に生かし、看護師や栄養士による関わりや行事の合同開催など連携を図りながら複合的なサービスを提供している。
また、事業所内に設置している喫茶「ドレミファドン」には利用者と職員が運営に携り、各事業所の利用者や地域の方々が立ち寄る交流の場としても活用されている。
運営推進会議には周辺3地区の町内会長が参画し、利用者一人ひとりに向き合うためのターミナルケアの実践や緊急災害時における地域の連携・協力体制について提起するなど、地域の福祉拠点としての可能性をとともに模索している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の目的を再認識し、サービスの向上に前向きに取り組む姿勢がうかがえるほか、日々の利用者の状況を詳細に記録し、利用者の状況変化や家族の要望に迅速に対応するよう努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を職員に伝え、管理者を中心に職員全員で意見交換しながら自己評価に取り組み、課題等を共有化して改善につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には近隣3か所の町内会長が参画し、災害時における協力体制について意見が出されるなど、地域との関わりや連携協力体制を検討している。 また、一般浴での同性介助やターミナルケアの取り組みなど、会議での意見を反映して具体的な取り組みにつなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、毎月の家族訪問時にケア方針の確認とともに意向や要望を確認しているほか、第三者委員を設置して相談や苦情への体制も整えている。 また、運営推進会議でも家族の意見に真摯に応え、些細なことでも運営やサービスに反映させたいと意欲的である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	みそのホーム全体で行う文化祭やクリスマス会などに地域の方々を招待し、地域の七夕まつりには利用者とともに参加するなど積極的に交流している。 また、ボランティア訪問や保育園児との交流のほか、事業所内に設置している喫茶「ドレミファドン」を地域に開放し、地域の拠点として機能を生かしている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営									
1. 理念と共有									
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いたわりと見守り、その人なりの自主性を尊重して日々の業務にあたっている。	○		法人の理念である「感謝、喜び、安心」を基本とし、利用者が地域のなかで、笑顔で穏やかに暮らせることを大切に日々の業務にあたっている。	○	地域との関わりについて実践しているため、それを盛り込んだ地域密着型サービスとしての理念を職員間で検討し、事業所独自の理念を構築してほしい。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に心して取り組んでいる。毎日の朝礼に意識している。	○		事業所の入口に理念を掲示し、朝礼や職員会議でも確認するなど、職員が常に意識しながら、愛の精神によるケアに努めている。			
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会を3ヶ月に1回実施し、家族や地域の方々に出席してもらっている。	○	運営推進委員会には、毎回全員出席され、意見交換はザックバランに話し合っている。				
	2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時など、隣近所の方々と会話したり、子供を通した会話をしている。	○					
	3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕祭への参加を実現している。喫茶ドレミファドンで地域の方々に参加してもらいたかったが、実現できなかった。文化祭には、沢山の方々に来場してもらっている。	○		地域の七夕まつりなどに職員と利用者が参加しているほか、みそのホーム全体で開催する文化祭やクリスマス会などには地域の方々を招待しており、保育園児との交流もある。 また、事業所内にある喫茶「ドレミファドン」を地域に開放し、利用者も運営に携りながら地域との交流機会を確保している。	○	事業所周辺地域の町内会から協力は得られているが、町内会には加入しておらず、また地域の老人クラブなど新たな交流の場づくりも考えられるため、今後の積極的な働きかけを期待したい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣のボランティアを受け入れて、地域とのつながりをもっている。	○					
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関、2年前指摘され19年、20年には0k	○		職員全員が評価の意義や目的を理解しており、職員間で意見交換しながら自己評価を行い、管理者がまとめている。 また、評価結果から課題等を運営推進会議等で課題にし、改善につなげている。			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入浴（一般者）同性介護（介助）の質問あり、観念して介助を受けているのでは・・・意見あり、同性介護（介助にしました。）	○	出された意見等については、可能な限り検討の上、取り組んでいる。	運営推進会議には近隣3か所の町内会長が参画し、地域との交流など率直に意見交換している。 また、事業所の運営及びサービス状況も報告し、検討結果を具体的な取り組みにつなげている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて相談している。	○		建物の耐震化について、行政担当課に相談したり、地域包括支援センターを通じて情報収集するなど必要に応じて連携している。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に行き、学んでいる。	○				
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修発表に参加（ホームとして） 毎日あざ（内出血）等に注意している。 (入浴時、着衣交換時、全身チェック)	○	細心の注意で防止につとめている。			
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に計画作成担当者が、十分に説明している。	○				
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者の居る所で利用者が苦情、不満を言っても言葉は中止しない。管理者にも報告し、職員間でも話し合っている。居合わせた、外部者へもきちんとした対応している。	○	細かい意見にも意を用い報告、相談改善には心を常につかっている。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時又電話等で報告必要に応じて管理者は手紙などで報告している。	○		事業所と併設する通所介護、小規模多機能型居宅介護と一体となった広報「みそのだより」を発行し、全体の状況を知らせている。 また、毎月家族が訪問するため、利用者一人ひとりの暮らしぶりを伝えており、電話や手紙などでも報告している。	○	前回調査から事業所独自の広報発行が課題となっているため、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と同様に事業所独自の広報を発行し、より詳細な情報提供に努めてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の第三者委員をもうけている。苦情箱も・・・	○	運営推進委員会に家族も必ず参加しているので意見の交換を自然的に出し合っている。	玄関に意見箱を設置しているほか、みそのホームで第三者委員を設置して苦情や相談に対応している。 また、毎月の家族訪問時に意見や要望を確認しており、運営推進会議でも家族の意見の集約に努めている。		
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングの機会を利用、計画、予算など意見を聞き実施。	○				

外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な時の変更には協力し合っている。 計画的要望にはきちんと対応している。（病院等への送り、迎え）	○				
	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があまりない（平成11年開始当時の職員が半数以上在職している。	○	補充は速やかに、人選には細心の心を使っている。	開設時からの職員が多く、職員の異動は同じ建物内の併設事業所が殆どであるため、普段から利用者と面識があり馴染みの関係ができています。 また、家族には広報でも紹介し、経験の少ない職員については段階的に育成し、質の確保に努めている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に、積極的に参加させ、施設内の研修発表を行っている。	○		法人内外の年間研修計画を立て、計画的に参加できる体制を構築しているほか、研修内容を報告する機会を設け、全職員での共有に努めている。 また、職員の資格取得に関しては初回受験費用を援助するなど、知識や技術の習得を奨励している。	○	今後は、職員一人ひとりの目標や希望などを研修計画に反映させるとともに、常勤職員のほか全職員の研修機会を確保するなど、全体的なスキルアップにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームでの研修に必ず参加している。	○		県及び市の連絡協議会に加入し、勉強会や意見交換の機会を持ちながら交流している。 また、管理者及び職員が他事業所との相互訪問を行い、そこで得た実戦経験や考え方をケアに生かしている。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・休憩時間を必ず取る。 ・職員同志のザックパランの意見交換。	○				
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ミーティテングなどに意見を互いに交換し、話合うようにしている。	○				
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問やホーム見学を行い、本人との対話の機会を増やす努力をしている。	○	職員の共通理解のもと特に努力している。			

みそのホームグループホーム								
外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問、ホーム見学の機会を増やし、家族の要望を傾聴するよう努め、スタッフにも伝えている。	○				
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得して利用出来るよう、情報提供につとめ、家族の真に望んでいる事を見極める。又デイサービス、小規模多機能のサービスについても説明している。	○				
	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	期間を設けて、本人が納得してからの利用にむけての援助に努めている。	○		利用者が事業所の雰囲気を体感できるよう見学を行い、自宅訪問などで職員との関係づくりに努め、利用に関して時間をかけて丁寧に説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人から、学ぶことがあり、素直に傾聴する事に、特に意を用いている。	○		職員は利用者の培った経験や性格などを理解し、食材の特徴や調理方法、味付け方法など利用者に教わりながら一緒に行っている。 また、ピアノ演奏や書道、カラオケなどの趣味活動も上手に引き出すよう努めている。		
14	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にしている。（電話対応や面会時の対話）	○				
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族からの要望など良く聞くよう努めている。	○	今後も、面会の折など、現状の報告、共に話し合う機会を逃さない。			
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長年通っている床屋さん美容院などに定期的に行くよう努めている。	○				
15	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みの利用者同士、お互いの居室を行き来したり、サロンで話せるように努めている。	○				
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者は、ほとんどいない。 亡くなられた方々には、毎年の法要ミサ、ホームの行事などに呼びかけている。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が暮し易い様に、ソファ等馴染めのものを部屋に、持ってきていただいたりして準備しているなど。・・・	○		ピアノを弾く方や愛用のクッションで落ち着く方など、日々の関わりや言動、表情などから利用者の意向を感じ取り、些細なことも見逃さないよう注意を払っている。 また、利用者の希望や意向を大切にし、やりたいこと、その方らしい生活の実現に向けて支援している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用して一人一人の生活歴等を共有している。	○	更にこれから努力してゆきたい。			
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りを読んで利用者の状況を把握している。共通理解に努めている。日中の雑談などを通して、本人をよく知る機会を作っている。	○	大切にしている。			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は作成しているが、サービス担当者会議の実施が出来ていない。	○	家族との交流はよくしているが、担当者会議の実施に心を用いたい。	利用者及び家族の意向や希望を把握し、必要に応じて主治医等の意見を求めながら全職員で話し合い、個別の目標を立てて介護計画を作成している。 また、課題等を全職員で話し合い、ケアの方針を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施している。	○	家族との交流は出来ているが、介護計画そのものの情報交換を密にして取り組みたい。	毎月のモニタリングにより、3～6か月毎に定期的に見直しているほか、日々の状況や変化など必要に応じて随時に見直している。 また、日々の個別記録を詳細に記入し、申し送り等で情報を共有しており、臨機応変な対応や実情に応じた柔軟なケアにつなげている。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそった記入をしているので、カンファレンスに活かしている。情報等の共有は心して密にしている。	○	今後もこれを維持してゆきたい。			
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援							
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス、小規模多機能があるので連携をとって柔軟な支援をしている。行事、催し物など共有して交流している。	○	ホーム内の他事業所との交流は密であるが、大切に保っていきたい。	利用者の状況や家族の要望により、通院介助など柔軟に支援しているほか、看護師を配置して医療連携体制も確保している。 また、建物内の併設事業所と合同で行事を開催したり、利用者の状態に応じて通所介護からの利用に変更するなど連携しながら対応している。		

みそのホームグループホーム									
外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働									
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	協力病院が近くにあり、連携をしている。運営推進委員会には、民生委員にも参加してもらっている。地域行事に参加する事もある。	○	寺内小学校訪問、行事に行くこともある。カトリック幼稚園、聖園幼稚園。				
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センターとの連携を図って支援にあたっている。	○					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会での包括支援センターのケアマネジャーの意見評価も大切にしている。	○					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人一人のかかりつけ医がいる。そして、本人、家族の希望に応じて往診なども依頼し、医療機関との連携を図っている。この事は、利用者家族の大きな感謝となっている。	○		利用者一人ひとりのかかりつけ医を優先しているほか、複数の医療機関からも協力を得ており、急変時でも対応できる体制を整えている。 また、定期受診のほか、利用者及び家族の希望に応じて往診も可能としており、歯科医による往診もある。			
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医にかかっており、通院介助や、状態の報告、相談している。	○					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員や本人をよく知る看護師などと相談をしながら行っている。	○					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	看取りケアを行うという契約を結んでおり退院後も受け入れ体制を整えている。	○					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取りについての説明している。家族の意向を優先し、かかりつけ医とも三者で話し合いしている。	○		看取りに関するマニュアルを整備し、家族に説明のうえ利用者及び家族の意向を確認して同意を得ており、実際に看取りを行ったケースもある。 また、重度期を迎える前に医療機関を交えて話し合い、全員で終末期に対する対応方針を共有している。			

外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えている方、重度化を迎えた方、それぞれに事業所のできることを見極め家族と医師と連携している。	○				
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事例がない。	○				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人1人の尊厳を守ることには、細心の注意をしている。	○		同じ言動を繰り返す方にも丁寧にに関わり、職員が発する言葉や語調などにも注意を払い、職員間で互いに確認しながら利用者に接している。 また、ファイル等については事務所の戸棚に保管し、個人情報の取り扱いを徹底している。	○	トイレの入り口がカーテンであり、プライバシー保護の観点から改善の必要性を認識しているため、法人と一体となって対応策を検討してほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の持っている意志、意向に合わせて対応している。	○				
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、生活のリズム、体調に合わせた支援している。	○		毎朝の習慣で亡くなった家族の写真にお供えする方や、週1回はスーパーに買い物に出かける方など、利用者の生活リズムや体調に合わせて柔軟に支援している。	○	洋服屋など利用者の興味のある買い物先を工夫し、金銭所持や外出に関して利用者の意欲を引き出すための取り組みにつなげてほしい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は家族と共に、なじみの店にいつている。	○				
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いている。また、利用者と一緒に調理したり、味見をしてもらいながら、一緒に食事を楽しんでいる。	○		基本的には併設の通所介護と同じ献立で、利用者と職員が盛り付けや後片付けなどを行っているが、日曜日は利用者の意向を確認して献立を決め、買い物から調理までの一連の流れを一緒に楽しんでいる。 また、利用者の状態等に応じてドライブなどに出かけ、外食を楽しめるよう工夫している。		

みそのホームグループホーム								
外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、果物等、利用者の好きな物を摂取できるよう支援している。	○	職員は本人の嗜好はよく把握し、共通意識のもとに細かく対応している。			
	56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェックを作成し、参考しながら、失禁回数を減らすなどの関わりをしている。	○	連絡を密にして、意を用いている。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	全く自由の選択は自他共に不可能心地よい入浴であるよう人間関係には努めている。	○		基本的に入浴の時間帯は決めており、重度化により特浴で対応するなど、利用者の健康状態に合わせての入浴を支援している。 また、一般浴を同性介助に変えるなど、利用者の意思を確認しながら対応している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団、毛布、丹前などのなじみのものを使い、安眠してもらえるよう支援している。	○				
	(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援							
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、職員共長いかかわりなので互いに知り合っている。誕生会を定期的に行っている。利用者の趣味に合わせた支援をしている。	○		食事の配膳や後片付け、掃除やタオルたたみ、ブランターなど利用者が自主的に行っており、利用者の力を発揮できる場面づくりを工夫している。 また、歌の時間にはピアノを弾ける方が伴奏し、書道などにも利用者の趣味や特技を生かしている。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持していただき、自由に使えるように働きかけはしているがそれに応じる方がいない現状。	○	運営推進委員会でも金銭の事は、質問されましたが、現状として使う所もなく、意欲も示さない状態です。			
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のドライブ、週1回買物、周辺散歩にでかけており、支援している。	○			
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に外出できるように、本人と家族と相談する機会を設けており希望にそった支援をしている。	○	四季に応じて、ドライブを計画して、実践しているが・・・			
		63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのやりとりができる機会があれば支援をしている。	○			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪問できるようにしており、面会の部屋も準備している。	○				
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の了解のもとにベット柵を使用している方もいる。	○	身体拘束には意を用いている。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	(危険物以外) 鍵は全く使用していない。	○		事業所は2階にあるが、玄関のある1階併設事業所による見守りが徹底されており、鍵をかけず自由な行動を可能にしている。	○	事業所の前には交通量の多い国道があるため、万が一の場合を想定し、近隣住民による声かけや見守りなどの協力体制について、運営推進会議で検討しながら働きかけてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認担当者をつけている。夜勤者もプライバシーに配慮しながら安眠の妨げにならないように、巡回をしている。	○				
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々人の状態を把握して対応している。危険な物に対しては、鍵を使い、保管、個人の持物（針、かみそり）等。	○				
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	チームワークを取りながら、細心の心づかいをしている。事業所全体で、毎月1回の委員会で勉強連絡をしている。（ヒヤリハット委員会）	○				
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	講習会終了している。	○				
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内から、運営推進委員会で話しはでているが具体的な話しまでは・・・毎月避難訓練をしているが、何回しても身につかない。隣の建物より応援がある。	○		年2回の避難訓練のほか、併設事業所と合同の避難訓練を毎月実施しており、夜間には隣接する修道院から管理者が駆けつける体制がある。また、スプリンクラーを設置し、緊急災害時に備えている。	○	運営推進会議で火災や災害時の体制について意見が出ているため、この機会に地域住民や町内会に訓練への参加を呼びかけ、実効性のある連携・協力体制の具体化に向けて取り組んでほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	種々の面において、家族との交流があるので、含めてその中で話し合っている。	○	家族との。話し合いをすべてにおいて密にしていきたい。			

みそのホームグループホーム									
外部評価	自己評価	項 目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援									
		73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の申し送りで、利用者の事はすべて情報を共有しているので、常に早期発見、対応は出来ている。	○	これからも、充分対応して臨機応変の処置をしたい。			
		74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	共通理解している。	○				
		75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	この事の大切を共有し、個々のチェックを細かく把握し対応。	○				
		76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後3回（毎食後）意識して行う。	○				
28		77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人のチェック（記録）をし対応している。	○		併設事業所の栄養士がカロリーを計算し、バランスを考慮した献立を作成しており、一日の食事や水分摂取量を個別に記録して栄養管理に努めている。 また、飲み込みが悪くなった方は人工的な栄養に頼らず、摂取しやすいよう調理方法を工夫しながら支援している。		
		78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策委員会を毎月一回（ホーム全体）消毒は毎日（トイレ手摺り、椅子、テーブル、手摺り、ドアノブ、洗面台）	○	神経を通して取組んでいる。			
		79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具→毎日消毒	○				
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり									
(1)居心地のよい環境づくり									
		80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの工夫はしている。	○	みそのホームとして事業が、4つある中で玄関は1Fにあり、標式の部分、エレベーター出入口の工夫をしている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー作り（毎月） 季節の花を飾っている。お花を飾る。	○		建物の構造上、玄関は併設事業所と共有しているが、2階事業所のホールや廊下には装飾品や写真、絵などを飾り、窓には障子戸を設置して家庭的な空間づくりに努めている。 また、利用者が休める小あがりのある空間や外を眺められるスペースを配置し、自由に過ごせる環境づくりに配慮している。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東側ロビー 畳の部屋、テレビのホールなど自由にくつろげる場所がある。	○				
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛用している。ソファ等家具類や物品を自由に準備し過ごし易いよう配慮している。	○		居室には写真や人形のほか、家具や手作りのクッションなど馴染みの物を持ち込み、個性を大切にした居室づくりを支援している。 また、手すりの設置や段差解消、洗面台の高さを利用者に合わせて調節するなど快適な生活環境づくりに努めている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を十分に行い、室温に関しては室温計等使用し管理している。	○				
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置、床の段差の解消等利用者1人1人が安全に生活できるように工夫している。	○				
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存能力を各職員が把握し、それぞれに応じて出きる事は、自分でする事の喜びも大切にしている。	○				
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、ベランダや屋上へ行き外気浴を行っている。	○				

※ は、重点項目。

項 目		自己評価
		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・互いにいたわり合い「安心して、自分の家として暮らす」の理念通り、職員、利用者、共に一つの家族のような雰囲気がある。（外部よりの声）

・アットホームな雰囲気の日々と、どの「ヘルパー実習生」も、グループホームのイメージを転換している。訪問した人に気づいたり、利用者が声をかける事も日常の事となっている。

・ターミナルケアを行っているので家族も安心されている事を感じる。